

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

# 臨地実習の看護学生における感染予防行動の文献検討

千葉滉也 仲川瑞紀 浜田唯  
(指導：阿部修子)

## <緒言>

日本看護協会(n. d.)は、感染予防について、感染経路を遮断し拡大を防ぐためには看護職、医師などの医療従事者のみならず、職場に出入りするスタッフなども確実に予防策を実施する必要があると述べている。中でも看護学生は臨床の場に立つスタッフの一員であるため感染予防対策が不可欠であると考えた。そこで本研究の目的は、臨地実習における看護学生の感染予防行動について文献検討を行い、看護学生の感染予防行動の実態について明らかにすることである。

## <方法>

**研究対象：**医中誌 Web では本文あり、原著論文、看護、症例報告・事例除く、会議録除く、2010～2020 年を絞り込み条件とした（最終検索日 2020 年 11 月 16 日）。対象文献を選定する際、看護基礎教育、母子保健、在宅、手術室などの特定領域は除いた。

キーワード「臨地実習」「看護学生」「感染予防」、統制語「感染予防管理」では 35 件がヒットし、うち 5 件を抽出した。キーワード「臨地実習」「看護学生」「手指消毒」とした 14 件のうち 2 件を抽出した。キーワード「看護学生」「感染予防」「予防接種」、統制語「感染予防管理」でヒットした 9 件のうち 2 件を抽出した。キーワード「看護学生」「ユニフォーム」の 5 件のうち 2 件を抽出した。各検索結果の重複が 2 件あり研究対象文献を 9 件とした。

**データ分析方法：**研究対象の文献について、タイトル、著者名、書誌事項、研究対象、研究内容を要約した。看護学生の感染予防行動の実態について、文献を熟読して抽出し、研究者間で確認しながら整理した。

**倫理的配慮：**文献は公開済みのものとし、出典を明記した上で、著作権法を遵守し使用した。

## <結果>

看護学生の感染予防行動の実態について“手指衛生”、“予防接種”、“ユニフォーム”、“体調管理”の 4 項目に分類し、結果にまとめた。使用した文献の研究対象については、表 1 にまとめた。

### 1. 手指衛生について

山本ら(2010)は、手指衛生に関する看護学生の知識について、「手指消毒のすり込む順序」の正答率は 25.8%、「手洗いは常在菌の除去が不可能」の正答率は 4.8%であったと報告していた。

表 1：使用した文献の研究対象（年代順）

著者	年度	タイトル	研究対象
柳橋千弥子, 柴田美子	2010	看護実習時におけるユニフォームの細菌汚染度	G看護短期大学の看護学生(3年生：男子学生2名、女子学生17名)19名
山本容子, 岩崎陽子, 滝下幸栄他	2010	学士課程看護学生の臨地実習終了時における手指衛生に関する状況	A看護学学士課程4年生のうち平成19年度に基礎看護学実習IIを履修した72名
上山和子, 宇野文夫, 片山陽子他	2012	小児期に多い感染症の看護学生の既往歴に関する調査-小児看護学実習前の自己申告資料の分析-	A短期大学看護学科第20期生(2001年)から第29期生(2010年)の10年間の小児看護学実習修了者
尾上孝利, 佐々木彩夏, 藤下恵里他	2012	看護学生の洗いおよび擦式手指消毒実施状況の評価	太成学院大学看護学部生41名(1年生9名、2年生12名、3年生10名、4年生10名)
吉村尚美, 高澤栄子, 横敷久美子他	2017	看護学部における新入生の感染予防のための初め教育の検討(その1)	A看護学学科平成26年生と平成27年度生164名
西田涼子	2018	臨地実習における看護学生の病棟環境整備に関する実態調査-感染予防に焦点を当てて-	A大学3年次の看護学生61名
岡山加奈, 植村直子, 金嶋悠莉他	2018	看護学生のユニフォーム交換における認識や行動の実態とユニフォームの細菌汚染	2大学に所属し、臨床実習を経験した看護学生2-4年次生251名
佐藤真由美, 斎藤晴華	2019	臨地実習における看護学生の手指衛生に関する知識と実施状況	すべての臨地実習を終了して3か月以内の4年制大学1校(221名)、専門学校2校(134名)計355名
越美美奈子, 飯倉潮世, 河野おり他	2019	看護大学生の臨地実習中の望ましい生活習慣形成におけるポジティブ・デビエンス	A看護大学4年生9名

尾上ら(2012)は、洗い残しの調査では、生菌数の多さは指先 70%、指の中間部、元部および掌は 10%であり、特に指先に洗い残しが多くみられたと述べていた。

西田(2018)は、手指衛生の 5 つのタイミングについて、「患者と接触する前」が最も高く、次に「患者と接触した後」、「清潔処置の実施前」の順であり、一方、最も低かった項目は「手袋を外した後」であり、次に「体液に曝露された可能性があるとき」であったと述べていた。一方佐藤ら(2019)は、手指衛生の 5 つのタイミングについて知識のある者は 38.0%であるにも関わらず、5 つのタイミングを活用した手指衛生を実施できたと回答した学生は 82.0%であると報告していた。擦式手指消毒効果に対して知識がある学生は 14.6%、手指衛生の使い分けについての知識がある学生は 15.8%と報告していた。また手指衛生の知識なしでも手指衛生を正しく実施できた要因として、臨床スタッフの手指衛生の模倣が挙げられていた。

### 2. 予防接種について

上山ら(2012)は看護学生の予防接種状況について調査し、2008 年度以降の麻疹の予防接種率は 80%以上、風疹は 70%から 80%であったと報告していた。

吉村ら(2017)は、予防接種に関する意識について、他者への感染予防を意識する学生は 98.2%、計画的に実施すべきと意識する学生は 98.7%に上ると報告していた。

### 3. ユニフォームについて

棚橋ら(2010)は、ユニフォームの細菌汚染度について、実習1日目よりも2日目に多くの細菌が検出され、ユニフォームのポケット部と腹部は細菌の汚染率・汚染菌数ともに高い傾向がみられたと述べていた。

岡山ら(2018)は、ユニフォームの着用日数について調査し、ユニフォームを3日以上着用する学生は1年生が22.0%、2年生が34.2%、3年生が53.7%と進級に伴い増加したと報告していた。

### 4. 体調管理について

越雲ら(2019)は、欠席や体調不良なく実習を乗り越えるために生活を整えられた看護学生の望ましい生活習慣形成について調査し、4つのカテゴリーを報告した。その中でも、【体調管理に力を入れる】は、〈身体の不調を予防する〉〈睡眠時間を確保する〉〈意識的に朝食をとる〉〈栄養バランスを考える〉の4つのサブカテゴリーからなると述べていた。

## <考察>

### 1. 手指衛生について

擦式消毒剤による手指消毒の知識の習得や実際の技術は山本ら(2010)、佐藤ら(2019)の文献を比較すると、9年間であまり変化していないことが示されていた。掛谷(2008)は擦式手指消毒の使用頻度が上がるように、その有効性についての再教育が必要であると示していることから、擦式消毒について擦式消毒の重要性を認識できるように教育することが必要である。

尾上ら(2012)、佐藤ら(2019)により、洗い残しが多くみられた部位があったことや、5つのタイミングに関して知識が低い傾向が示されたため、洗い残し部位や手指消毒のタイミングなど、手指衛生についての指導が必要であると考えられる。諏訪ら(2020)は看護技術を学ぶ段階にあわせ、単元ごとに指導することが必要であると述べており、看護技術と関連させて学習する必要がある。

また、看護師を模倣し手技を実施していた学生が見受けられたことから、看護学生は技術の正確性を身につけるために、看護師の実施を観察していると考えられる。看護学生の手指衛生の実施には、自己の知識はもちろん臨床のスタッフの技術の正確さも影響を及ぼすと考えられる。

### 2. 予防接種について

上山ら(2012)、吉村ら(2017)により予防接種についての必要性は理解しているが実施率については高くないことが示されており、日本環境感染学会ワクチン委員会(2020)は自らの罹患歴や予防接種歴の記憶は不確かであるため、罹患歴を確認するための抗体検査や、予防接種の記録を保管しておくことが医療関係者には求められると示していることから、看護学生も同様に感染予防の

ガイドラインを遵守できるよう確認していく必要がある。

### 3. ユニフォームについて

ユニフォームの細菌汚染や汚染部位、着用日数についての意識や知識が不足していることが示され、また田中ら(2001)は、看護職の85%がこれまでにユニフォーム交換の指導を受けたことは無いと回答していることから、看護学生に対しても今後感染予防への意識の観点から指導が必要である。

### 4. 体調管理について

欠席や不調なく臨地実習を乗り越えた看護学生は臨地実習に向けて体調を整えており、感染予防行動のひとつであるといえる。看護学生の体調管理に焦点を当てた文献は少ないため、今後全看護学生を対象にして体調管理と感染予防の関連についても調査が必要である。

## <対象文献>

越雲美奈子, 板倉朋世, 河野かおり他(2019): 看護大学生の臨地実習中の望ましい生活習慣形成におけるポジティブ・デビエンス, 獨協医科大学看護学部紀要, 12巻, 17-28

西田涼子(2018): 臨地実習における看護学生の病床環境整備に関する実態調査—感染予防に焦点を当てて—, 名桜大学紀要, 23号, 103-107

岡山加奈, 植村直子, 金嶋悠莉他(2018): 看護学生のユニフォーム交換における認識や行動の実態とユニフォームの細菌汚染, 日本環境感染学会誌, 33巻6号, 276-284

尾上孝利, 佐々木彩夏, 藪下恵里他(2012): 看護学生の手洗いおよび擦式手指消毒実施状況の評価, 大成学院大学紀要, 14巻, 43-52  
佐藤真由美, 斎藤瑠華(2019): 臨地実習における看護学生の手指衛生に関する知識と実施状況, 日本環境感染学会誌, 34巻3号, 182-189

棚橋千弥子, 柴田由美子(2010): 看護実習時におけるユニフォームの細菌汚染度, 岐阜医療科学大学紀要, 4号, 37-43

上山和子, 宇野文夫, 片山陽子他(2012): 小児期に多い感染症の看護学生の既往歴に関する調査—小児看護学実習前の自己申告資料の分析—, 新見公立大学紀要, 第33巻, 57-61

山本容子, 岩脇陽子, 滝下幸栄他(2010): 学士課程看護学生の臨地実習終了時における手指衛生に関する状況, 京都府立医科大学看護学科紀要, 19巻, 21-28

吉村尚美, 富澤深子, 棧敷久美子他(2017): 看護学部における新入生の感染予防のための初期教育の検討(その1), 四国大学紀要, (B)自然科学編45号, 21-30

## <引用文献>

掛谷益子(2008): 手指衛生教育後の看護学生の手洗いおよび擦式手指消毒実施状況, 吉備国際大学保健科学部研究紀要, 13号, 35-41

日本看護協会(n. d.): 看護職の労働安全衛生, 労働者の感染管理 <https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/safety/infection/> (最終閲覧日2020年11月19日)

日本環境感染学会ワクチン委員会(2020): 医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版, 環境感染誌 Vol. 35, Suppl. II

[http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline\\_03\(2\).pdf](http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline_03(2).pdf) (最終閲覧日2020年11月19日)  
諏訪美栄子, 春田佳代, 相撲佐希子他(2020): 手指衛生とそのタイミングに関する基礎看護技術の教科書分析, 修文大学紀要, 11号, 67-75

田中里香, 叶谷由佳, 中山栄純他(2001): 中小規模病院における看護職のユニフォーム交換頻度と看護管理者の指導に関する研究 千葉県調査より, 日本看護研究学会雑誌 24巻4号, 69-76